PART.43

うおーきんぐ Walking

2014.12

恋人の聖地を訪ね "愛"で町おこしの三宅町をレッツ・ウオーク！

今月は、万葉の愛の花「あざさ」が詠まれた地、奈良盆地のへそにあたる県内で一番小さな町「三宅町」を歩く。〝恋人の聖地〟のラブチェアに座ってほっこり、はたまた夫婦でプロポーズアゲインもロマンチック。聖徳太子が通ったという太子道（筋違道）を歩き、田園地帯にひしめく古墳群に「誰が眠る?」と空想タイムも楽しんで。最後はランチでまったりと♪

古墳に沿う農道が、ハートを描くようにも見える（平成26年10月上旬撮影）

❷恋人の聖地

NPO法人地域活性化支援センターにより、プロポーズにふさわしいロマンチックなスポットとして今年５月に認定された。県内では2例目。ファッションデザイナー桂由美さん揮毫の金色の銘板「恋人の聖地」と、ハートマークがポイントのラブチェアが出迎える。

❸忍性菩薩御誕生之地石碑

良観房忍性は、鎌倉時代の高僧で日本の社会福祉事業の先駆者。慈善救済事業に精進し「北山十八間戸」（現存する日本最古の救らい〈ハンセン病〉施設）を創設したと言われ、西大寺、般若寺、額安寺などで南都の戒律復興にも尽力。

❹腰掛石

聖徳太子が斑鳩と飛鳥を往復する際、休憩のため腰を掛けたと伝わる。また、村人が風よけに腰掛石の後ろに屏風を立てたことから、「屏風」という地名になったとか。

日替わりランチ　500円（キノコのスープパスタ、かぼちゃのサラダ、リンゴのコンポート）

❺喫茶みそら屋

町民に愛されている喫茶店。日替わりランチは、和が中心のワンプレートで時々洋風も。数量限定ということもあり、昼頃には完売するほどの人気ぶり。早めの来店がおすすめ。社会法人ひまわりが運営し、喫茶部門と調理部門がメニューを考案。

☎ 0745-42-2919
住 磯城郡三宅町伴堂689
三宅町保健福祉施設「あざさ苑」内
時 10：00～17：00（LO16：30）
休 土・日曜、祝日、年末年始

屏風の清水（矢じりの井戸）
聖徳太子が従者の持つ弓矢で地を突くと、水が湧き出たと伝わる。

黒駒に乗る太子銅像
平成24年11月に再建。昭和５年建立の像は戦時中に金属類として献納され、台座のみ残っている。

❶万葉歌碑

万葉学者犬養孝氏の揮毫（きごう）による「三宅の原」を詠んだ万葉歌碑。万葉集は大和の地で詠まれた歌が一番多いのに、奈良盆地の真ん中で詠まれているのは、三宅の原に咲く「あざさ」の花の歌だけだという。この万葉歌は、親の問いかけに息子が妻を紹介する内容。

うち日さつ　三宅の原ゆ　常土（ひたつち）に　足踏み貫き
夏草を　腰になづみ　如何（いか）なるや　人の子ゆゑぞ
通はすも吾子（あこ）　諾（うな）な諾な　母は知らじ　諾な諾な
父は知らじ　蜷（みな）の腸（わた）　か黒き髪に　真木綿（まきわた）もち
あざさ結ひ垂れ　大和の　黄楊（つげ）の小櫛（をぐし）を
抑へ挿す　卜細子（うらぐはしこ）　それぞわが妻

〔反歌〕
父母に　知らせぬ子ゆゑ　三宅道の
夏野の草を　なづみくるかも

「歴史と愛の町、三宅町」より抜粋

三宅野原を通り、地面を一歩一歩踏みしめ、腰まで覆い茂った深い夏草をかき分けて、いったいどんな子のために通っているのかね、我が子よ。

本当にね、そうでしょうともよ、父さんも母さんも知らないでしょう。豊かな黒髪に木綿であざさを結いたらし、大和産の黄楊の櫛で押さえ刺している美しい娘、それが私の愛する妻です。

両親にも知らせぬ妻のために、夏野の茂った草に苦労して通うことだ。

愛の花「あざさ」

（学名あざさ）

愛の花で知られる万葉花。町花。5月から10月までの午前中に小さな黄色い花を咲かせる。湿地の多かった三宅（現、三宅町）一面に咲く様を想像すると、とてもロマンチック。

三宅町ボランティアガイドの会

三宅町の魅力をＰＲ！　ガイドの持ち場を決める定点ガイド方式を中心に展開し、イベントなどでは紙芝居や天平衣装で舞いながら万葉歌を表現することも。

ガイドの申し込みは、
三宅町地域活性課（☎0745-44-2001）まで
※ガイド無料・時間は応相談